

令和8年度宮前区合同避難所運営会議を開催しました

宮前区役所危機管理担当

令和8年8月24日（月）、27日（木）に宮前区役所において令和8年度宮前区合同避難所運営会議・防災ネットワーク連絡会議を開催しました。

この会議は、宮前区内小中学校の避難所運営会議代表者、学校関係者、PTA 関係者、各学校を担当する宮前区役所職員（被災者支援班）が一同に集まり、各学校での避難所運営に関する課題の共有、防災ネットワーク連絡会議相互の交流と意見交換を目的として開催しています。

本年度は、二日間で計76名が参加し、前半は消防局幸消防署の仰義博氏による「令和6年能登半島地震被災地派遣時の避難所運営について」の講義、後半は、グループワークとして、各日6～7つの班に分かれて避難所運営の課題について話し合い、各班が検討した結果を発表し共有しました。本紙では、このグループワークにおいて、各班が課題ごとに話し合った結果（抜粋）をご紹介します。



課題①

「避難所運営の課題について（地域みんなで支える避難所づくり）」

1 それぞれの避難所における課題

- ・ 町会加入率の低さ
- ・ マンションが多く顔見知りが少ない。
- ・ 若い世代の関心度が低い。
- ・ 避難所運営メンバーの高齢化（現役世代への継承）
- ・ 避難者のお客様化（苦情などが多くなる）
- ・ 避難所運営会議に関わる自治会ごとの温度差（各自治会長のリーダーシップをどのように発揮していくか）
- ・ 災害発生時、避難所となる学校の児童・生徒の安全確保と避難所運営の両立

2 課題に対する具体的解決策

- ・ 自治会の行事を積極的に行い、顔見知り、つながりをもつ。自治会、町内会への加入を促進する。
- ・ 若い世代への積極的な広報
 - SNS、インスタ等の活用
 - LINE の活用（防災 LINE を活用している自治会などを参考に）
- ・ 担当を外れた後も避難所運営に携わるように促す（役員など1年交代しその後関わりがなくなってしまうことが多い）
- ・ 親と子が一緒に避難所運営に参加できる環境の整備
- ・ 協力可能な避難者に避難所運営への参画を促す。

- ・地域で避難所を運営するという意識を普段から持つ（役所の職員が直ちに避難所に行けるとは限らない）
- ・町、学校、PTA の行事に防災要素を含め、世代に関わらず多くの人に防災活動に関わってもらう。
- ・日中のみならず、土日や夜間におけるシミュレーション訓練の実施

課題②

「衛生環境とトイレの課題」

1 それぞれの避難所における課題

- ・避難所に設置するトイレの設置場所の検討（最適な場所はどこなのか。避難所である体育館から離れた場所だと不便である等）
- ・トイレゴミのにおいを考慮した保管場所の検討
- ・水、電気が使えない状況を想定した事前検討（マンホールトイレの活用、汚水ますの確認（避難所も自宅も普段から確認しておく））
- ・衛生環境を維持するためのルールの検討
- ・川崎市が導入を進めているマンホールトイレとはどういうものなのか。
- ・各家庭における仮設トイレ、携帯トイレの備蓄不足
- ・季節（冬・夏）によって違いがある。

マンホールトイレは地中にトイレ専用の排水管を設置し下水道に接続するものです。汲み取り不要で水洗トイレに近い衛生的な環境を確保することができます。

川崎市では令和13年度をめぐりにすべての避難所にマンホールトイレを整備する予定です。



マナビー

2 課題に対する具体的解決策

- ・トイレは防犯面も考慮し人の目が届くところに設置する。
- ・トイレ使用や清掃に関するルールなどを事前に作っておく。
- ・トイレゴミの回収体制の早期構築
- ・通水確認や使用可否を伝える担当など事前に決めておく。
- ・衛生環境の維持は衛生班が中心となり当番制で行う。
- ・トイレや衛生環境に関する運営は避難所運営で一番大きな問題になってくるため、普段の地域の関わりを大切にする。
- ・マンホールトイレの早期設置
- ・マンホールトイレが整備されるまでは、対応について話し合い準備しておくことが必要

課題③

「ペット同行避難の課題」

1 それぞれの避難所における課題

- ・ペットに関する避難所の対応（ペットアレルギーなど）
- ・ペットの数が増えた際、どのように管理するか。
- ・犬・猫以外の動物への対応
- ・ペットの管理は誰が行うのか。
- ・ペットと同伴での避難スペースの確保（能登半島地震では、避難者がペット同行での避難に関する環境が整備されておらず、車中泊での避難に切り替えることがあった。）

2 課題に対する具体的解決策

- ・受付の時点で情報を管理し、アレルギーを持っている避難者との接触を防ぐよう導線を分けるなどの対応をとる。
- ・ペット避難スペースの確保（部屋、ケージ）
- ・動物病院に協力を依頼したり、区災害対策本部の保健衛生・福祉班に相談する。
- ・ペットは飼い主同士で管理する。
- ・普段から広報活動を行い、ペット同行避難に対する理解を広める。

課題④

「誰もが安心して過ごせる避難所づくり」

1 それぞれの避難所における課題

- ・情報、物資、女性、子供、介護、外国人など、当事者の意見を反映する場やグループがない。
- ・PTA や町内会への加入が少ない。
- ・避難所運営会議に参加する女性が少ない。
- ・女性の役割（プライバシー、炊き出しや清掃、育児、介護）が偏る。
- ・外国人への対応が不十分
- ・避難所開設時、最初に対応するのは誰か（町会の人はずぐに駆けつけられるか）。
- ・避難者の避難所に対する過度な期待
- ・安心できる避難所とはどんな避難所か。トイレ、ペット、プライバシー、環境などの課題をクリアしておくことが課題
- ・避難者のいわゆる「場所取り」に対する対策。安心して過ごせるスペース、人数とはどの程度なのか。
- ・高齢者、乳幼児に対する優先順位の付け方

2 課題に対する具体的解決策

- ・さまざまな当事者の意見を集約する窓口を作る。
- ・女性、子供、高齢者等の視点は災害当日ではなく、事前からの準備が必要（避難所運営会議での話し合い、情報の集約）

- 集合住宅居住者も避難所運営会議に参加し、災害時の避難所運営について考える。
- 避難物資なども含め避難所における女性への配慮に関する事前検討を行う。
- さまざまな世代が性別に関係なく積極的に避難所運営会議へ参加する。
- 性別や年齢に関係なく男女共同で分担する。
- 男女ペアでの防犯パトロールの実施
- 外国語に対応できる人でチームを作って対応する。
- 外国人の対応マニュアルを作成しておく。
- 誰が避難所に駆けつけても開設できるよう避難所開設キットの確認を行っておく。
- 簡易トイレやマンホールトイレといったトイレの充実
- 町会が中心となり、避難スペースの区割りなどの場所の選定を行う。
- 地域のコミュニティを日頃から作っておく。

会議の様子



会議に出席いただいた皆様、活発な意見交換をしていただき、ありがとうございました！



コスミン



メロー